

巻頭言

地理学・地理教育研究室のスタート

吉 水 裕 也

2019年3月をもって長年本学にお勤めいただきました吉本剛典先生が定年によりご退職されました。3月には神戸ハーバーランドキャンパスにて最終講義とご退職祝賀パーティーが行われ、薫陶を受けた多くの卒業生・修了生が集いました。当日拝聴した最終講義で配布された資料には、地理学に貢献した人物が多数取り上げられていました。その中にラプラスという人名を発見したときに、地理学と数学の具体的なつながりを思いつつ、学部の教養時代の「線形代数学」の授業を思い出しました。ラプラス展開に苦しめられた記憶しかない授業でしたが、これが計量地理学の授業で再登場したときには驚き、そして吉本先生の資料の中にその名を発見したときには、なぜかうれしくなったのです。吉本先生には、本当に長らくお世話になりました。今後も引き続きご指導賜りますようお願いいたします。

さて、2019年度はいくつかの新しいことが始まった年でもあります。

第1に、大学院修士課程から教職大学院への移行の年となりました。そのため2019年度は修士論文が提出される最終年度でもあります。今年度は、3名から修士論文が提出されました。本冊子にはそのうち2編が掲載されています。一方、新しく始まった教職大学院の授業では、「社会系教科の授業デザインの理論と方法(1)」が、地理的な内容と方法の、そして地理学・地理教育の理論と実践の融合を指向する授業です。この授業は、南埜先生、阪上先生を中心に吉水も加えていただいております。この授業は、教職大学院における地理・地理教育の中核的な授業の1つになるため、組織的なFDを実施し、ブラッシュアップを継続する必要があります。

第2に、学部では野外実習を主とした自然地理学演習と人文地理学演習がスタートし、8月末に沼島(南あわじ市)での2泊3日の野外実習を含む授業が展開されました。本冊子にもその報告が掲載されています。地理学徒はフィールドに足繁く通う。兵庫教育大学の学部授業で野外実習が実施されることの意義は大きいと思います。

このように変化の大きかった2019年度でした。そして、これらは全て地理学・地理教育研究室のスタートに繋がっているのです。